

静岡県

TuneFind_MK にとっての静岡は、三島、湯ヶ島、浜松です。三島は、松岡さん；湯ヶ島と浜松は井上靖先生です。今ここでは、井上靖先生の話だけ先にすすめますね。先生は北海道旭川の出生ですが、静岡県伊豆湯ヶ島で幼少時代を過ごされ、静岡県浜松市の小・中学校で学んでいます。なぜ井上靖先生に興味があるかという、小説「敦煌」です。小説の冒頭の西夏の女の、あまりにも鮮烈な、そして活力が湧き出るような描写に、読者の TuneFind_MK は虜になってしまいました。さて西夏といえば、そしてその女は、チベット系のタングート族です。パンダさんたちもチベット系の方々近くに住んでいるので、こんな西夏の女の気質を受け継ぐ子孫の方たちに出会っていることでしょう。さて、その女の逞（たくま）しさと漢字に似た未知の西夏文字に魅せられた趙行徳_主人公は、西夏内地へと入り込み、西夏軍の先鋒隊の外国人（漢人）傭兵として組み込まれてしまいました。西夏軍内で出世をした趙行徳は、多数の部下とラクダを動かせる大隊長となり、仏典を戦火から守る天命に心がひらめき、おびただしい数の仏典を千仏洞へと移送保管することで、後世への遺産を残しました。小説の終わりあたりには、仏教の興隆を願った西夏の王、李元昊が、千仏洞と三界寺を大規模に修復し、盛大な仏事供養を行ったことも記されています。そして最後の数ページは、突然時代が近世に下って、「敦煌」の千仏洞が複数の探検家たちによって発掘され、その宝典は4万余点の経巻に及ぶ、と述べられています。漢語の写経仏典が多かったのはもちろんですが、それらに混じって、西暦三、四世紀に遡る古代トルコ語や、西藏（チベット）語、西夏語のような仏典もあり、東洋学にかつてない新しい光を与えた、としめくくられています。史実を調べあげながら、フィクションで肉付けして、魅力のある小説「敦煌」として提供して下さった井上靖先生は、どんな風にして歴史を調べていったのでしょうか？先生は京都大学の文学部哲学科の卒業だそうです。茶摘みの動画を、まったく別の話題に向けてしまつてごめんなさい。「静岡茶摘み話」を中国の「刘三姐, 劉三姐」と繋いでなにか肉付けできますか？ 親愛なる李姐妹さん！